

福山医学祭で発表しました

平成29年11月26日 於 福山市

「第24回福山医学祭」で、当協会職員4名が口述発表いたしました。

このうち神田、中本は、優秀賞をいただきました。

それぞれの発表要旨は次のとおりです。

I. 脳梗塞、心筋梗塞を予測するバイオマーカーLOX-index®の検討

臨床検査技師 神田 愛

LOX-index®は新しい動脈硬化の指標として、脳梗塞や心筋梗塞の将来的な発症リスクの予測に用いられるようになって来ている。

当協会では、健康診断オプション検査として LOX-index®（ロックスインデクス）を導入したが、このたび従来の動脈硬化の指標のひとつである空腹時の脂質項目（中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール）との相関の有無の検討を試みた。

その結果、明らかな相関は見られなかったことから、LOX-index®は血清脂質とは独立したリスク因子であることが示唆された。

II. 特定保健指導の効果と今後の課題～男女間の有効性の比較を中心に～

保健師 中本 由里

A健康保険組合の特定保健指導において、初回支援時と最終支援時に実施する食事と身体活動に関する『生活行動アンケート』結果の比較により、6ヶ月間で日常生活の行動がどのように変化したかを検討した。その結果、食事において女性では、献立の変更・味付けの工夫など調理に関すること、男性では食事量・食べる速さ、ジュース類や菓子類を控えることなどが有意に変化しており、身体活動において女性では、仕事以外で体を動かすこと男性では階段をよく使うことが有意に変化した。このことから性差をふまえたアプローチや変化の少ない項目の指導について検討が必要と思われる。

Ⅲ. 医療機関における作業環境測定

作業環境測定士 篠原 達也

作業環境測定は、屋内で有害物を取り扱う作業場の気中濃度を定期的に測定し、その結果・評価により作業場の環境管理を行う。評価は第1管理区分（適切）第2管理区分（改善の余地あり）第3管理区分（速やかに改善措置が必要）とされている。

このたび医療機関で医療器具等の滅菌に使用されるエチレンオキシド（特定化学物質障害予防規則第2類物質）について、平成14年から現在までの環境測定管理区分の推移を取りまとめた。平成14年から平成18年の5年間では第2管理区分が2.2%、第3管理区分が7.2%であったが、平成19年から平成23年の5年間では第2管理区分が1.8%、第3管理区分が3.2%と改善され、さらに平成24年以降はほとんどの作業場が第1管理区分と改善された。

また、作業環境の実施状況とともに具体的な改善事例を紹介した。

Ⅳ. 精検対象者に対する受診勧奨の取り組みとその成果について

臨床検査技師 折坂 智恵子

当協会では、2013年よりガン検診精密検査未受診者に対し、健診結果報告概ね4か月後にハガキによる受診勧奨を開始した。

このたびハガキ導入前後での精密検査受診率を比較しその効果を検証したところ、胃部エックス線検査、便潜血検査、胸部エックス線検査で受診率が向上し、有意な改善が認められた。しかし、受診率に変化のみられない項目もあるため、新たな受診勧奨の取り組みが必要と考えられる。